


『キラーズ・オブ・ザ・フラワームーン』 ( <i>Killers of the Flower Moon</i> )		清水 純子
		2023 年
制作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	<p>スタッフ：監督&amp;製作 マーティン・スコセッシ他/ 製作総指揮 レオナルド・ディカプリオ他/ 原作 デビッド・グラン/ 脚本 エリック・ロス、マーティン・スコセッシ/ 撮影 ロドリゴ・プリエト/</p> <p>キャスト：アーネスト・バークハート・レオナルド・ディカプリオ/ ウィリアム・ヘイル・ロバート・デ・ニーロ/ モリー・バークハート・リリー・グラッドストーン / トム・ホワイト・ジェシー・プレモンズ/W・S・ハミルトン・ブレンダン・フレイザー/他</p>	
画像		
カラー・モノクロ	カラー	
時間	206 分	
ストーリー	<p>1920 年代禁酒法のアメリカのオクラホマ州で、石油利権を持つ先住民オセージ族の大富豪が次々と怪死した実話を描く。オセージ族の富をうらやみ、取り上げようとたくらむ白人たちは、先住民には資産運用能力がないとして後見人になり財産管理をした。さらに白人はオセージ族と婚姻関係を結んだ後、早すぎる謎の死を画策して利権をわがものにしようとした。私立探偵も地元当局も真相を解明できなかったが、FBI 長官になる J・エドガー・フーヴァーは特別捜査官トム・ホワイトと共に徹底的な捜査を始め、白人の陰謀と悪事を暴く。戦争帰りの白人アーネスト・バークハートは、有力者の叔父の言うなりにオセージ族の富豪モリーを娶る。アーネストのモリーへの愛は本物だったが、叔父のあやつり人形であったため、結果的にモリー殺害未遂に手を染めることになり、服役する。裏切られ傷ついたモリーは、アーネストを見限って再婚する。</p>	
時代設定	1920 年代 禁酒法時代	
場所	アメリカ合衆国オクラホマ州オセージ	
社会文化的背景	<p>1920 年代アメリカは禁酒法の時代、第一次世界大戦後の復員兵が労働に復帰、社会的変動の狂騒の 20 年代、製造業の成長と消費者需要の増大、ラジオの黄金時代、移民排斥と外国人嫌悪、先住民蔑視、オイルマネーによる富豪先住民の出現。</p>	
使用言語	英語、オセージ語	

テーマ	白人による先住民蔑視と搾取、人種差別と偏見、利権獲得の陰謀、富へのあくなき欲望と執着、成金主義、裏切りと策略、悪と正義、正義の芽生え、過去に対する反省、先住民の視点からの歴史観。
みどころ	白人がいかにか先住民を巧妙に欺いて利権を得ようとしたか、そのインチキ臭さと悪を暴くが、正義を行ったのも同じ白人の FBI 捜査官である皮肉。利権をむさぼる悪党ヘイルがどことなくユーモラスで愛嬌がある。利用され通しのアーネストの煮え切らなさとおセージ族妻モリーの毅然とした態度が対照的。先住民は白人から動物並みに思われていたのに、恋愛感情も育った不思議。先住民の視点に立っての歴史観。
印象深いせりふ	HALE : Times like this people put castles in the air, held aloft by hysteria, rush blind with greed, based on fear, unfounded fear. Fear running all over the place and screaming like animals. This is a cattle ranch. There's no oil here. So I'm settled with no fear. These Osage have had enough trouble, they're down to not too many of them left. There's a way that nature moves and changes direction and that's happened upon them. Time will run out, this wealth will run dry drier than the seven years of famine that plagued the Pharaohs of old. They're sick people. Big hearted but sickly. You saw bloodshed.
授業教材用 メリット	アメリカの恥ずべき実話を正直に正確に記している。アメリカの人種差別と白人による有色人種差別と蔑視、搾取の実態を描く。過去の過ちを告白し、後世に伝えることによって前進しようとする勇氣と心意気は尊敬に値する。白人の罪意識と先住民への謝罪が露わにされるが、デ・ニーロ演ずる悪党の白人はユーモラスで憎みきれないところが慰めになっている。
授業教材用 デメリット	3 時間半の上映時間は長すぎる。アメリカ人にとっては過去の貴重な歴史であり、反省材料だが、日本の学生には馴染が薄いため、理解や共感が得にくい。
映像入手元	パラマウント映画/ 配給：東和ピクチャーズ
原作の有無	デビッド・グラン『花殺し月の殺人 インディアン連続怪死事件と FBI の誕生』（2017 年）
支持反応	Rotten Tomatoes による評価（批評家による score 93 , audience score 84）
キーワード	実話、インディアン連続殺人事件、オセージ族、白人、石油利権、土地、オイルマネー、人種差別、西部劇、サスペンス、FBI。